

広告  
制作  
読売新聞社広告局  
採録

読売テレビ毎週土曜朝8時より25局ネット報道番組

# ウェークアップ!

# × 日本大学

創立130周年  
記念シンポジウム



厚生労働大臣

加藤勝信氏

この国の医療や介護を  
どうしていくべきか?  
官民連携による  
取り組みが  
進んでいます

読売テレビの報道番組「ウェークアップ!ぶらす」(毎週土曜朝8時から25局ネットで生放送)が10月7日、ホテルオークラ東京(東京都港区)にて日本大学創立130周年記念シンポジウムを開催。約800名の聴衆が詰めかけた。テーマは「どうなる日本!?!~この国の医療への診断書~」。第一線で活躍する医師や政治家が、熱い討論を行った。



辛坊 治郎

ウェークアップ!ぶらす  
メインキャスター

森 麻季

ウェークアップ!ぶらす  
キャスター



優秀な医師を輩出し、医療に貢献する

今回のシンポジウムでも討論されたように、我が国の医療は多くの課題を抱えています。

日本大学医学部は大正14年の創設以来、福祉・健康に寄与してきた伝統のもと、多数の優秀な医師を輩出してきました。また、日本大学病院、日本大学医学部付属板橋病院を擁し、高度で先進的な臨床研究を行い、肝/胆/膵がんの分野でも、日本の医療に大きく貢献してまいりました。日本大学はこれからも患者さまに信頼される医師を育て、日本の医療に貢献できるよう努めてまいります。

日本大学 理事長 田中英壽

# どうなる日本!?!

~この国の医療への診断書~



日本大学医学部長 消化器外科教授

高山 忠利氏



日本大学医学部教授 消化器病センター長

後藤田 卓志氏



日本大学医学部 糖尿病代謝内科教授

石原 寿光氏



医師・医療ジャーナリスト

森田 豊氏



元厚生労働副大臣 日本大学医学部卒・医学博士

鳴下 一郎氏

の言葉を受け、後藤田氏が「増税による高福祉が、医療格差が生まれてしまうが、アメリカのように個人が保険に入るなどが考えられる」と所感を表明した。

「平等を重んじる日本では、医師の成果に収入が見合わないのでは」と辛坊氏は指摘。外科医を志望する学生が減ったと明かす高山氏は、「キツイ・汚い・金がないの3Kに加え、リスクも高い」と実情を述べた。鴨下氏は、「100時間を超えるような過酷な労働条件では、質の高い医療が施せないこともある」と医師の働き方改革に触れた。

医療ジャーナリストの森田氏が取り上げたのは、AI(人工知能)の活用。「症状や検査結果を入力すれば、世界中の最新の論文データとも連動した診断や治療法の提示が可能になります」と説明した。後藤田氏は、画像

日本大学医学部卒、同大学院外科学修了、医学博士。  
国立がんセンター中央病院外科医長などを経て現職。

東京医科大学医学部卒、医学博士。  
国立がん研究センター勤務を経て現職。

東京大学医学部卒、医学博士。  
東北大学病院糖尿病代謝科講師を経て現職。

東京大学大学院医学系研究科修了。  
埼玉県立がんセンター医長などを経て現職。

日本大学大学院医学研究科修了、医学博士。  
前衆議院議員、元環境大臣。

【基調講演】

日本医療の課題と展望

厚生労働大臣 加藤勝信氏

我が国が直面している最大の課題の一つが「少子高齢化」です。しかし、日本が世界有数の長寿国になったのは、国をあげた努力の結晶であり、国民皆保険制度によって私たちは安価な医療費で高度な医療を受けることができます。問題の根幹は「高齢化」ではなく「少子化」といえるでしょう。

団塊世代が75歳を迎える年に起こる「2025年問題」への対処としては、医療・介護サービスの提供体制の整備が急務。「西高東低」といわれる医師偏在の改善や医師の働き方改革による、医療従事者の確保も必要です。また、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるための「地域包括ケアシステム」の構築や、健康・医療・介護のデータを連結するデータヘルス改革も推進しています。こうした国の取り組みに加え、医師会や経済界、自治体などが連携する動きも生まれました。

そして、私たち国民一人ひとりができることとしては、平均寿命のさらなる延伸や医療費・介護費の急伸が予測される中、健康寿命(※)を延ばすための健康管理が不可欠です。  
※健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間



日本の医療の未来について意見を交わす登壇者

1 日本大学医学部を代表する3教授に聞く「医療現場の今」

シンポジウムではまず、日本大学医学部長の高山氏、同医学部教授である後藤田氏と石原氏が、それぞれの立場から医療の現状を語った。

肝臓の深奥にある尾状葉の単独全切除を世界で初めて成功させた高山氏は、「肺がんや大腸がん、乳がんが増える一方、肝がんや胃がんは医療界の努力で減少傾向にある」と日本のがん罹患率の現況を紹介。日本の生体肝移植は家族の愛に支えられているというエピソードも披露した。

続いてマイクを握った後藤田氏は、早期胃がんの治療に寄与したESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)の開発者。「早期発見が何よりも重要。検診を促すための思い切った政策が出なければ、受診が進まないのではないか」と

検診の大切さを訴えた。

世界トップレベルとも称される日本の糖尿病医療の道で最先端の研究を重ねる石原氏は、「糖尿病治療は日進月歩」と話し、指から血液を流すことなく血糖値を測定できる技術や、肌に貼り付けるだけでインスリンを投与できるマイクロニードルなどを紹介。後藤田氏と同様に、検診を推奨した。

2 社会保障制度、医師不足、AI…医療を取り巻く現状と課題

辛坊氏は、2015年度の国民医療費が9年連続で過去最高を更新したことと言及。日本の医療制度が破たんする可能性を問題提起した。

「私たち政治家も危機感を抱いている。肝炎やがんの高額な治療費を誰が負担するかが問題」という鴨下氏

や数値の読み取りにおけるAIの確実性を評価。石原氏は「糖尿病治療は患者の性格の見極めが重要。AIには向かない治療もあります」と見解を示した。「告知や看取りは医師にしかできない。だからこそ高い人格が求められる」と森田氏。最後に「日本大学医学部のモットーは、よき臨床医の育成。安心と安全を備えた医療を提供していきたい」と高山氏が締めくくった。



加藤勝信氏の基調講演に聞き入る約800名の参加者

第一人者の方々と共にこの国の医療の未来を考えたい

日本大学 副学長・文理学部長 加藤 直人

昨年に続き、「ウェークアップ!ぶらす」との共催によるシンポジウムを開催できたことに感謝いたします。本年は、現職(※)の厚生労働大臣である加藤勝信氏に基調講演をいただいた上、本学医学部の卒業生で医学博士かつ元厚生労働副大臣の鴨下一郎氏をはじめとする第一人者の方々と論客にお迎えできました。

有意義な情報に触れ、この国の医療の未来について共にお考えいただけるよき機会となれば幸いです。

※2017年10月7日時点



「醫明博愛」の教育理念のもと新たな日大プライドを求めて

日本大学医学部は、1925年に専門部医学科として開設されて以来、これまで90年の歴史を刻んできました。「醫明博愛(いみょうはくあい)」の教育理念のもと「よき臨床医の育成」「優れた医学研究者の輩出」「熱意ある医学教育者の台頭」を3大目標として運営してまいりました。卒業生は1万人を超え、地域医療および高度医療に大きな力を発揮しております。創設100周年へ向け「新たな日大プライド」を求めて、さらに邁進いたします。

■主催：読売テレビ / 日本大学

■協力：日本大学医学部 / 日本大学病院

■制作協力：エルフ・エージェンシー

●日時：2017年10月7日(土)開催 ●場所：ホテルオークラ東京 アスコットホール

130周年の輝きと共に、未来を創る



日本大学

http://www.nihon-u.ac.jp